

総合教育センター  
学生向け情報誌  
クレードル  
27号

# CRADLE

Center for Research And Development of  
Liberal arts Education  
27th issue

みんな汗だくでした 

## つながりが生まれてきた

### 「森に生きる ローカリーアクト天理 SDG s 森に生きる」

p.2 竹村 景生 (総合教育センター)

全学教育推進機構 総合教育センターの仲間です

## 自分の「好き」を大切に生きて

p.5 吉田 智佳 (総合教育センター)

## 奈良の観光の魅力

p.6 森田 実 (総合教育センター)

わっ...『汗だく』かぶった 

心の健康法 22

## ときどき思い切り脱力しましょう！！

p.8 仲 淳 (総合教育センター)

## つながりが生まれてきた

### 「森に生きる ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる」

総合教育センター 竹村 景生

今年度の「森に生きる」(2回生以上)は、「ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる」(新年度生)と、2つの名前を持った授業としてスタートした。しかし、SDGsを授業でどのように学ぶのか?というイメージがうまく伝わらなかったのか、例年だと10名以上集う1回生が、受講生3名にとどまってしまった。はたして、今年度はスタートできるのだろうか?と心配していたところ、「森」「ローカル」「SDGs」というワードが、どういうことか県内の大学生の関心を寄せることになった。このような授業が自分たちの大学にはないから参加させてほしいと、近畿大学農学部、奈良学園大学、奈良県立大学の学生10名が各回の活動に参加することになった。

他大学の学生がこの授業に求めたものは何だったのだろうか?そこには、1回生が中心となる本学学生との違いが見えてくる。3,4回生が中心となる農学部や地域創生の学生には「大学で学んだ知識を何に使うことができるのだろうか?」という、社会参画への渴望感があるように思えた。また、授業でお呼びする講師の方たちが、単に仕事として林業に携わっているという事だけではなく、その生き方に現れているように、森の生態や持続可能な林業についての理解が深く、市民参加型の社会への啓発活動をされているところに惹かれていたようだ。自分もまた、専門性を通して何らかの社会的貢献ができないだろうか?というキャリア形成として模索しているように見えた。

参加した近畿大学の学生からはESD・SDGsをもっと学びたいので、本や学びの機会を紹介してほしいと相談があった。ちょうど、近畿の学生たちの集まりである「ローカルSDGsユースネットワーク拡大作戦」があったので紹介した。余談ではあるけど、参加した学生がそこで出会ったのが谷口直子先生(2013年度~2022年度の間に複数年度「森に生きる」を担当)で、「森に生きる」の話で盛り上がったと報告を受けた。これもまた、つながりなんだろうな。

今年度から天理大学の新たな試みとして、『農』というキーワードが入ってきた。そこに、地域の持続可能性や環境への配慮がその学びの中で取り入れられるようになれば、きっと本学学生に新たな視点が芽生えてくるだろうと期待するのである。学びというものは、他領域とフュージョンすることで活性化するものだ。

以下、8月の2回の放置竹林の整備から竹林活用についてと、9月の川上村「ようぼくの森」での実習について学生の声をまとめておく。最後に、本年2月に、ようぼくの森という私たちの活動の場をご提供いただき、長年にわたり授業に協力いただきました水本茂先生がお亡くなりになりました。謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

## \*学生の感想(8月3日、24日)\*

・8月3日の授業では東乗鞍古墳にある竹林から竹を伐採して、その竹をスタードーム用の建材として加工しました。竹林を伐採したあと、日本における竹林の現状についての講義を受けました。その講義では竹林の放置が増加することによって竹と竹の密度が高くなり、そして地盤がゆるくなり災害に繋がる。それを止める方法のひとつが、竹林を適度に手入れすること。そうすることで地盤が緩くなることを止めることができるという内容でした。



・竹藪の中で傘をさせるくらいの間があるのが良い竹藪だと聞いた。作業をした竹藪は、良い竹藪に近づいていると感じた。竹は成長速度が速いのと、竹の表面がガラス質で普通のノコギリでは切りづらいということ、蚊が多くお金にもならないので面倒だというのが放置される原因だと思う。

・お昼休憩の前に竹についての説明があった。竹はなぜ空洞で中に節があるのかということ、強度を上げるため、竹は節の一つ一つに生長点があるから

成長が早いと聞き、面白いと感じた。

・8月24日の実習ではスタードームと大凧を作った。去年の実習ではスタードームだけ作ったが、今回は凧も作ると聞いて、楽しみにしていた。去年は大きいスタードームと小さいスタードームを作ったが今回は小さいスタードームだけを作った。スタードームを作るときは、スタードームの全体像を想像しながら作ると、簡単に作ることが出来る。ただスタードームの骨組みを固定するロープをつけるのが少し難しい。竹にあけた穴がずれていると、ロープを通すのにとてもパワーがいるので汗だくになった。

スタードームを作ってから、学生ホールで大凧を2つ作った。1つは天理大学、もう1つは近畿大学の人を作った。まず、大凧を作るときは和紙をつなげて作りたいサイズにする。そしてそこに絵を描く。それから、凧の骨組みを作り、その骨組みに和紙を貼る。凧は2メートル近くある巨大なものであったので、絵を描くのがとても大変



だった。大きすぎて絵のバランスをとることが難しかった。そして和紙に描いたので水が多すぎると、すぐに破れそうになった。そして絵を描き終わってから、骨組みを作った。凧を飛ばした時に空中で凧が壊れると危険なので、紐でとても強く固定した。ここまでで、この日の作業が終わった。そして9月8日のオープンキャンパスの時に仕上げの作業を行った。この日は2つ目の骨組みを作り、凧を曲げて飛びやすい形にしたのだが、それがとても楽しかった。皆で力を合わせて竹を曲げてロープで固定するのだが、曲げていくと竹からミシミシと折れそうな音が鳴るのでスリルがあって楽しかった。

今回の実習では、初めてすることが多かったのでとても楽しかった。作った凧が飛んでいるところを想像したらとても迫力がありそうだと思った。いつかこの大凧を飛ばせたら嬉しいなと思う。

・オープンキャンパスと同日開催でしたが、スタードームは無事完成し、大凧も多くのOC来場者に見て頂けたので良かったと思います。

・ミニチュア模型を元に竹を組みスタードームを作りました。少ない材料で簡単に作る事ができるスタードームは便利なものだと関心を持ちました。凧作製では凧のデザインに苦労しました。

#### \*学生の感想(9月14日)\*

・9月14日の授業では川上村へ行き、間伐作業を体験し、その後森と川の源流館を見学しました。

間伐作業では7月に桜井で行った間伐体験より地形が険しく木が太かったのでかなり苦労しました。源流館では、この地域の林業の歴史や川上村の現在行っている活動などを学ぶことができとても勉強になりました。

・実習場所は過去に受講者が間伐を行っていた区画であった。そこに広葉樹の自生を確認

した。これは間伐により地表層へ日光が到達するようになった事が要因であると考えられる。

実習は2組に分かれて行い合計で4本を間伐した。周辺地域の山林は、手つかずのまま放置されているように見えた。

「森と水の源流館」では展示や館内ガイドツアーだけでなく、付近の山林での体験プログラムなども企画されており、さまざまな人に向けた情報発信源としての役割を担っていると感じた。



## 自分の「好き」を大切に生きて

総合教育センター 吉田 智佳

皆さん、こんにちは。私は2024年4月に国際学部から人文学部総合教育センターに異動してきました。天理大学に着任して20年目、総合教育センターの「新人」です。英語1、2や基礎ゼミナール、アカデミック英語科目群（実践アカデミック英語1、2、上級アカデミック英語）、言語学概論1、2とCollege English Grammar A、Bを担当しています。着任20年目にして、このような機会をいただいたので、自分の「好き」という感覚を大切に生きる話をしたいと思います。

幼稚園の頃から私の夢は「先生（教師）になること」でした。「先生（教師）」は憧れの仕事でした。環境に応じて、なりたい対象が、幼稚園の先生から小学校の先生、中学校の先生、高校の先生、そして、大学の先生へと変わりましたが、なりたかったのは、ずっと変わらず「先生（教師）」。

中学生になって、特に、面白いと思った科目は理科と英語。理科では、「学習係」（＝授業開始の10分間で、先生に代わって前回の授業のまとめをする係）だったため、熱心に話を聞き、一生懸命にノートを取る子供でした。また、実験や観察の記録をつけるのが大好きでした。実験の結果は予測通りにはいかないことも多く、最後は「実験は失敗だった。」と書いて終了。そんなある日、私は人生に大きく関わるアドバイスをいただきます。自由研究の実験・観察日記を提出した数日後のことです。理科の先生に呼ばれ、こう言われたのです。「実験結果が予測（仮説）通りにうまくいかなかった理由を考えてみよう。それが研究の考察だ。研究は実験で終わりではなくて、考察が大事なんだよ」と。子供でしたが、このことばに未来が「パーッ」と明るくなるような気がしました。「なぜ失敗したのかを考えて、その部分を修正してやりなおせばいいのか。何度もやればいいんだ！」。

もう一つの興味の対象は英語の文法でした。当時の英語の授業は文法に重点が置かれていて、文法的に正しい文（＝正文）と文法的に誤った文（＝非文）がよく提示されました。この正文と非文の対比が私の感覚に合い、「なぜ、一方が正しくて、もう一方が誤りなのか」という理由が知りたくて、中学生・高校生の頃には先生によく質問をし、大学生になると、ある単語を別の単語に置き換えた例文をいくつも作って、英語母語話者の先生にチェックを受けました。そして、その例文の一覧を眺めて非文と正文を分けているのは何だろうと考えていました。この頃から、理科の実験・観察と英語という二つの「好き」が私の中で徐々に融合し始めていたのでしょう。

その後、年月を経て、この融合は第二言語習得研究というところに辿り着きました。

第二言語とは母語（＝最初に獲得することば）の次に習得することばです。この第二言語習得研究との出会いはチャンスの神様が差し伸べてくれた手によって導かれたと思っています。現在、私は大学で英語を指導していることもあり、日本語を母語とする英語学習者にとって、英語の文法項目（前置詞や冠詞、疑問文など）の「何が難しいか」「その難しさをどう指導すればよいか」や「ある特定の文法項目を、学習者はどのような段階を経て習得していくか」を明らかにするために仮説を立て、その仮説を検証するために実験をし、その結果を分析して考察しています。この一連の過程がとても面白いのです。「第二言語習得研究ってどんな研究なのかな？」と調べてくださった方にお勧めしたいのが、この本！執筆者全員が、大学1年生くらいを対象に、言語学や言語習得を専門としない人にもわかっているように分かりやすく書いています（私は第5章「前置詞の習得—前置詞とその前後の要素の関

係性」を書きました)。

「先生(教師)」という仕事に憧れ、理科の実験・観察と英語が好きだった子供は、今、好きなことを仕事にして、楽しく、充実した日々を生きています。「何が好きか」を自分に問いかけ、「その好きなことを一生懸命にやってみる」。その思いやひたむきさをチャンスの神様は見ている。「こそぞ!」というときに、そっと手を差し伸べてくれるのだと信じています。皆さんもぜひ、自分の「好き」という感覚を大切に、その好きなことに本気で取り組んでみてください。きっと、チャンスの神様はあなたの近くにいて、じっとあなたを見つめています。



お勧めの一冊

## 奈良の観光の魅力

総合教育センター 森田 実

はじめまして、森田実と申します。「観光」の授業を担当しております。

「なぜ、天理大学で観光?」と思われるかもしれませんが、これからの日本経済を担う学生の皆さんが、社会人となった際に間違いなく「必要だから」です。

日本は現在「観光立国」を目指し日々推進しています。2019年には日本人海外渡航者数が2,000万人を超え、2024年の訪日外国人観光客数はおそらく過去最高の3,500万人を超えるのではと予想されています。地球規模で人々が「観光」で往来しています。新型コロナウイルスの影響で観光業界は一時低迷の状態にありましたが、現在V字復活をしております。また関西圏だけでも来年2025年の大阪・関西万博開催、2030年秋予定の大阪IR(統合型リゾート)の開業など観光業界は次代を担う必須の業界として位置づけられています。

私は大学卒業後、株式会社JTB(旅行会社)に就職し28年間勤めたのち早期退職し大学教員になりました。サラリーマン時代は、日本全国、世界各国各都市を様々なお客様と一緒に「旅」をして参りました。この経験は私にとって何ものにも代えがたい唯一無二の貴重な財産であります。

晩年は「旅行に出かける」ベクトルから「いかにして旅行に来てもらうか」というベクトルに180度方向転換し、ここ「奈良」を舞台に、様々な業務を行政の方々と一緒にしてきました。海外プロモーションをはじめ、海外への情報発信、外国人観光客受入環境の整備、外国人観光客向け観光案内所の運営、宿泊施設の運営、観光地域づくり、イベント企画・運営、消費喚起に資するキャンペーン、食農販路拡大、MICE運営等、これらの業務の経験が今

の授業に役立っています。特に特別講義5「旅行コンテンツの造成と発信」、特別講義6「観光コンシェルジュの育成」は「尖った授業」で面白いと思います。

本題に入りますが、奈良の観光は一言で言うと「知れば知るほどおもしろい」のです。

奈良の観光は「奥が深い」と言われます。それは「日本始まりの地」、奈良時代の趣を感じる、歴史と文化が交差する古都だからです。奈良には四季折々の佇まいがあり、春には吉野山や佐保川で桜が咲き誇り、秋には奈良公園や談山神社の紅葉が美しい。大和野菜など地元食材や伝統を大切にされた郷土料理のおもてなし、美しさや技術力が国内外で高く評価されている奈良一刀彫や赤膚焼、奈良漆器などの伝統工芸品も楽しみ、歩くたびに歴史と自然が織りなす美しい風景があり、いずれも奈良を訪れる人を魅了しています。ふと目をとじると、1300年前の古代ロマンの情景が浮かんできます。奈良は目で見て旅をするのではなく、「ここで見るところ」、ここで感じて旅を楽しんでいただきたい。だから奈良は「知れば知るほどおもしろい」のです。

そのようななかで私が現在取り組んでいる奈良への誘客事業を紹介します。「なら SLOW & LOOP (大和まほろば新探訪計画)」と申しまして、これは奈良への来訪客の宿泊及び周遊促進を図るため、奈良の主要地を1周する形でつながる JR 大和路線、万葉まほろば線、そして和歌山線をじっくり時間をかけて巡ることで、悠久の時間が育んだ古都・奈良の魅力を深く体験・体感し楽しんでいただくというものです。天理市はもちろん県内の観光・商工事業者一丸となり、各路線でさまざまなイベントを実施し「奈良ならではのツーリズム」をこれから紹介していきます。今後どこかでこのロゴを見ていただく機会があると思いますのでその時はぜひ私を思い出してください。

それではみなさまよろしくお願いたします。



## 心の健康法 22 ときどき思いきり脱力しましょう！！

総合教育センター 仲 淳（臨床心理士）

このあいだ、サウナに行ってきました。いま流行りの「サ活」というやつですね。

スッカマ（炭窯）という、薪を燃やして炭を作ったあとに残った余熱で熱気浴ができる（韓国の伝統的な民間療法なのだそうです）、日本初の設備のあるスーパー銭湯に行って、人生初の岩盤浴も経験して、いっぱい汗を流してきたのです。

汗かき用の浴衣に着替えて、人目もはばからずにダラ～ンと完全脱力しまくって、汗をかいては水を飲み、冷凍庫みたいなクールゾーンに入って体を冷やしたら、また窯のサウナと岩盤浴で汗をかく、ということを繰り返すこと3回。。

気がついたら、頭や体のダルオモ～な感じがすっかり消え失せていて、スッキリしゃっきり！！「これが“整う”というやつなのか～」と実感したのでした。

サウナには、いろいろな効用があるそうで、詳しくは公益社団法人日本サウナ・スパ協会のHP（[https://www.sauna.or.jp/kisochishiki/saunabook\\_5.html](https://www.sauna.or.jp/kisochishiki/saunabook_5.html)）を見てもらえたらと思うのですが、今回強く感じたのは、一切なにも考えず、ひたすら力を抜いてそこにいて、ボケ～っとすることのよさというものでした。

ほの暗い縄文時代の竪穴式住居のような窯に入り、心地よい癒し系のギターの音を聞きながら目を閉じていると、自然と家族の笑顔が思い浮かんできたりして、大切なことはなんなのかを思い出せたような気もしたのでした。

ぜひみなさんも、ときどき思いきり脱力して、無になる時間を持ってみてください！

そうすると、心と体が空っぽになって、不思議と天然自然な新しいフレッシュなエネルギーがわいてくることあるのではないかと思いますので。

「から(空)だから、からだ！！」 なんちゃって～(\*^-)v



編集後記 今年の夏はびっくりするほど暑かったですね～。その暑さの中、今年も「森に生きる」では川上村での間伐実習を実施する事ができました。水本先生、今まで本当にありがとうございました。これからもがんばります！！（杉）

CRADLE(クレードル) 第27号 2024年11月発行

発行者 上田 喜彦 天理大学 全学教育推進機構

編集 仲 淳 杉本 めぐみ

〒632-8510 奈良県天理市柚之内町 1050 電話 0743-63-7092 (内線) 6111

印刷 天理大学 DPセンター